



シルバーだより

No. 294

平成26年12月1日

荒川シルバー大学

荒川区荒川3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

～動から静へ

名誉学長 自分史教室講師 原田治子

「えっ、もう師走なの」歳をとるほどに時の流れの速さを感じるのは私だけでしょか。そのせいか、80歳を過ぎた頃から時間は有限であると、殊更に自覚するようになりました。今年の除夜の鐘は、この思いを一層ふかめてくれることでしょう。さてそこで、年の終わりにあたって、来し方を顧みながら、人生の出口までの有限な時間をどういきるかを考えてみました。

幼少期から青年期にかけての貧困。戦時中の飢えと恐怖。社会人（教員）になって、達成感や成成感はあったけれど、不本意な縛りに自問自答を繰り返し、葛藤した長い年月。60歳定年退職。39年間の教職から離れ一抹の寂しさはあったけれど、重圧や心ない競争など、世間のしがらみから解放されたあの日の爽快感。



しかし、それも束の間のことでした。私にとっては運命とでもいえるのでしょうか。荒川シルバー大学の仕事が待ち構えていたのです。区内高齢者有志の高邁な理念と情熱、将来を見据えての洞察力によって創られた「自主運営の学舎」この出会いに私は変心。初代水越清次理事長・二代秋山照子理事長をはじめとする先人たちの、シルバー大学の基礎作りに寄せる真摯な姿を目のあたりにして「私にもやることがあるはずだ。こうしてはられない」と、決心というか、覚悟というか、複雑な気持ちが今日に至る22年間を支えてきたのです。

私の役割は重くもあり、やり甲斐もありました。学長・名誉学長というのは上下を表わす地位でもなければ名誉職でもありません。シルバー大学という組織での一つの役割です。ではその役割とは。

- 先人の志を継ぎ、誰もがしがあわせを実感できる自主運営の輪の中心になって働くこと。
- 人（学生） 物（環境） 金（予算）に細心の注意をはらって最善の方向に導くこと。この役割が十分に果たされたのかどうかは、これからゆっくり考え

ます。

除夜の鐘に私はこんな思いを寄せます。

でこぼこ道だったけれど / この道とおってよかったな / 優しくてあたたかい人に / こんなにたくさん出会えたんだもの / これからの私 / 自分と静かに向き合ってわが心のままに旅をします / 鉛筆・消しゴム・ノートを持って / 動から静への引っ越しだ / しがらみよさようなら / 本当の私よこんにちは
来年も荒川シルバー大学をみんなですっかり育てていきましょう。

講師：佐々木時子先生の巻頭言“フラに魅せられて”について（10月 No.293号）

※巻頭言の後半が未掲載となっておりますこととお詫び申し上げます。引き続いての文章を、下記に掲載させていただきます。

師匠であるクムに良く言われた事は、良いスピリットを持つ事、そうすれば内面の美しさを外に出すことができ、後は、曲の持つ意味や内容を理解して踊りを心から楽しむ事。

テクニックより美しい物語を奏でる事が大事であること。そして踊り手は、良い語り部で有るべきだという事、と言われたことを心にとめて、フラの持つ魅力に私もまだ学び続けています。

縁あってシルバー大学でフラを教える機会に恵まれ、私が経験して感じたフラを少しでも生徒さんと共有できればと思っています。これからも生徒さん達と一緒にゆっくり楽しくフラを学び、健康に気をつけて、人生の思い出の1ページを共に過ごせたら、と思っています。



◆ 学園祭が終わって…投稿順 ◆

料理教室

講師 立川禮子

毎年学園祭展示では「みんなで作って、みんなで食べる」楽しさをわかっているにはと苦心する。今年は教室の皆さんの協力でかなりうまくいったように感じる。毎回の料理写真と各料理班のスナップが、おいしさと和やかな雰囲気表現できた。教室での料理の写真のできがとても良く「おいしそう！お腹が空いた」の言葉は嬉しかった。資料として出した絵入りのレシピも早々となくなって、毎年楽しみにして作る、という感想も聞いた。

絵本と伝承遊び教室

講師 石崎恵子

新メンバーにとっては大変だったと思いますが、それぞれに個性ある展示ができていい発表になったと思います。少人数のクラスだからこそその心温まる触れ合いも見られました。今年は折紙作品に本人のコメントを添えたのも好評でした。お子様タイムは日曜日の設定でしたが、土曜日の来客の方が多く設定時間に課題が残りました。大人の方々にも、コマ、ペンギン、フクロウ、カエル等楽しい製作体験をしていただけてよかったです。

自分史教室

講師 原田治子

「私を見てよ、私を見てよ」どの作品からもこの声が聞こえて来ました。一生懸命の姿が作品の中に生きているからです。この人達と、学び舎を共にしている幸福感を胸いっぱいにした三日間でした。自分史教室は、「一枚の写真が語る自分史」「私の好きな漢字、それはなぜ」が主題でした。それぞれが、個性・年輪を感じさせるみごとな作品でした。人間には加齢とともに進化する能力があることをはっきりと証明した学園祭でした。

絵手紙教室A教室

講師 岡田芳子

「個性に輝く」をテーマに教室で学んでいます。時々「へたでなかなかうまく描けない」という声があがりますが、へたが楽しいし、へたに味があるし、へたに深みがあるのです。“へたこそ上達の道”へたを楽しめるようになると気が付いたらうまくなっているのです。学園祭発表作品の中には、前日の教室で描かれた作品もありました。どの作品も個性に輝き豊かな表現に拍手です。

◎どこの教室も特長があり学びのすばらしさを感じました。

パソコン教室

講師 望月利一

今回は、昨年使用したホールでの展示を予想し、従来の印刷物の展示に加え、プロジェクターを使用した作品の上映をする予定でしたが、茶道教室がホールを使用するというので、パソコン教室は、今回、昨年まで茶道教室が使用していたミニギャラリーを割り当てていただきました。

初めての場所だったので、使い勝手の予想が難しかったのですが、落ち着いた空間の中で、印刷物の掲示と作品の上映を同時に行うことができ、大変良かったと思います。展示作品の配置や、上映作品の上映時間の表示など、工夫の余地も残りましたが、ぜひ来年以降もこの場所での展示ができればと思っています。



当教室は、今年で5回目の出展になりました。過去の活動努力(?)が認められ掲示パネルを拡大して頂きました。今回は、生徒さんが積極的にかつ大勢の出展者に協力してもらい、例年以上、大変良く出来たと自負しています。

俳句教室

講師 田中 京

俳句教室は、人数が増えましたので、開会の前日の授業の後、皆で展示に行きました。一人短冊一句ずつの展示でしたが、二段にするための位置決め等、大勢の目で見ての作業はチームワークよろしく程なく終わりました。

そこにある一句一句には、作者の個性が表れていて、詠まれた時の情景や心持などを想像してみることができました。こんなに個性豊かな俳句を詠む事ができる人達とご一緒できて、これからが一層楽しみになりました。

パステル・絵の具画教室

藤島 久子

毎年少しずつ人数も増え、展示スペースに計画どおりレイアウトできるかどうか心配でしたが、全員で協力仕合い展示することができました。この教室の特徴は一人一人の個性を大切にし、持ち味を生かすことです。同じ作品は一つとして無く各自好みの画材で自分の世界を表現しました。最初戸惑っていた方も、作品は自己表現ということを理解し、立体もユニークで楽しいものになりました。“楽しく制作する”これが上達のコツでもあります。

書道(金曜)教室

私は教室に参加して四年目になります。仕事も現役も続けているので、ちょっと「しんどい」こともあります。それでも、一ヶ月二回、二時間の教室で過ごす時間は、家で出来ないこともあって、大変集中し充実したひとときです。

その中で学園祭は、日頃の学習の成果の発表の場となっています。毎年、付け焼き刃で作品を提出する私にとっても、学園祭は仕上げるだけでなく、教室全員の協力の成果ともいえます。今年も皆さんの力を結集して素敵な会となりました。来年度以降も益々の発展を願います。

8班 松が迫秀行

今と昔の町歩き教室

講師 望月公子

年を追うごとに盛大かつ充実している学園祭にシルバー大学の勢いを感じています。「今と昔の町歩き教室」は、今年で十年目を迎えました。102名の学生全員で十周年を祝う気持ちを表わそうと取り組んできました。各班が班長を中心に個性を發揮した作品は、共同作品ならではの工夫や会話の中で出来上がったものでした。広くなった展示場で一年間を振り返れたことを皆で喜び合うこ

とができました。

老いては駄馬に等しで、アチコチ手ぬかりがあり生徒にメイワクをかけたが、60歳台の人が牽引車になり協力し合って「いい作品」を並べてくれた。感謝している。来年は私も力を込めた作品（時間をかけた絵という意味ではない）を出品した、オイボレも頑張っていると態度で示すことが講師としての良心だと思っている。

教室紹介・・・写真機と私と写真教室

写真が好きな方を大きく分けると、映像としての写真を趣味にされている方と、写真機に興味がある方がいるのではないのでしょうか。



私はフィルム時代の写真機のメカニカルなところに引かれ、道具としての写真機が大好きでした。（ライカ、キヤノン、ニコンはもとより、ミノルタ、ペンタックス、ペトリ、トプコン、ミランダ、等々）

フィルム写真のころ写真を撮るには、其れなりの技術が必要でしたので写真を撮ることより、ただカメラを色々操作して時間を過ごす時の方が多くありました。

デジタルカメラの時代になり、写真機が機械式で無くコンピューター入りの電気カメラになり機械としての写真機の魅力は薄れてしまいました。その代り写真撮影に特別な技術が必要でなくなり手軽に写真が撮れるようになり、再度写真撮影の勉強しようと思ひ写真教室に入ったわけです。

教室では、戸叶先生に写真を教わることはもちろん、仲間の一人一人が写真好き、カメラ好き、写真談議好きなど良き素敵な先生達です。

写真教室 代表 細田金義

荒川シルバー大学研修旅行

シルバー大学に入学して15年目の今年、勇気を出して研修旅行に参加しました。当日は小雨が降ったり止んだりのはっきりしないお天気でした。荒川区役所前からバスに乗り、長野に向かいました。

最初の見学時は【信州みそ工場】。お味噌の試食をしました。次に【SUWAガラス】を見学し宿泊地の上諏訪温泉【RAKO華乃井ホテル】に2時頃到着しました。各部屋に分かれゆっくり団らんのひと時。宴会は豪華なお料理が並び、歌や踊り、芸達者揃いで楽しませていただきました。夕食後、小雨が降るなかで花火鑑賞。ぐると囲まれた山々にこだまする花火の音が心に残りました。

2日目は雨が上がり諏訪湖遊覧船に乗りました。下船後は自由散策で間欠泉

を見学しました。ホテルで昼食後はまた自由行動でした。友人の伊藤さんの案内で同部屋の四人北澤美術館へ行き、公開中の【アールヌーヴォーのガラス工芸展】を見学しました。タクシーで移動し下社秋宮をお参りしました。御柱祭りでは有名な御柱に触れ元気をいただき、ホテルに帰りました。この夜も賑やかな宴会でした。伊藤美江子さんが【浜千鳥】などの歌詞カードを用意して下さり、思いがけず舞台上がって歌い、よい思い出ができました。最後には全員で輪になって合唱しました。

3日目は10時にホテルを出発しました。【チーズケーキ工房】で買い物をし、勝沼でぶどう狩り。【ふじみのり】というぶどうが美味しかったので、家族へのおみやげにしました。【マンズワイン工場】を見学試飲。石和のホテルの昼食では名物のほうとうをいただきました。中央道を通り予定前に荒川区役所前に到着しました。

学び続けるお仲間と過ごす時間はとても楽しく有意義でした。是非、来年も参加できるよう、健康管理に努めたいと思います。天候の心配やバスの手配をはじめ、この研修旅行が快適なものになるようにとの役員の皆様のご苦勞とご配慮に感謝申し上げます。

29班 河田廣子

◆◆◆◆◆ 11月の学園日誌 ◆◆◆◆◆

- | | | | |
|----|-----------|-----|-------------------|
| 4日 | 常任理事会・役員会 | 19日 | 27年度年間日程申請(センターへ) |
| 7日 | 区功労表彰式 | 26日 | シルバーだより294号作成 |

※ 事務局だより ※

1. 荒川区功労者表彰について：推薦団体として本年度ご推薦致しました小磯教子さん・木村幸子さんが「荒川区功労者」として11月7日に表彰式が行われました。活動賞として華道教室元講師 栗田貞子先生が活動賞を受賞なさいました。おめでとうございます。
2. 12月の教室練習日変更のお知らせ
フラ・ダンス教室：8日と22日です。
音楽教室：6日土（午前）と12日金（午後I）です。

(事務所) TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691

ホームページ：<http://www.arakawa-silver.com>



室長・田原